令和 5年11月29日

シニアカレッジ新潟 25A同期会の活動について

新潟大学旭町学術資料展示館見学会の報告

さる11月 9日(木)これぞ秋晴れといっていいほど晴れ上がった一日、私達シニアカレッジ新潟25A同期会のメンバー14名(男性 8名、女性 6名)は以前から計画していた「新潟大学旭町学術資料展示館」の見学会を行いました。

新潟大学は新潟県内唯一の総合大学(ユニバーシテイ)で、自然科学、人文科学に関する10学部11学科と幅広い学問領域をもっています。

令和 2年に私達は、新大フィールド・ミュージアム（博物館、考古学資料・美術品・歴史的遺物・その他の学術的資料を広く保管し、これを組織的に陳列して公衆に展覧する施設。)を見学し、国登録有形文化財である医学部正門(赤門)や赤煉瓦塀はじめ先達(顕彰する)の胸像、歌碑など屋外にある貴重な資料を見学した経緯があります。

当時改装中であった学術資料展示館は、新潟師範学校の50周年を記念した新潟市域に現存する最古級の鉄筋コンクリート造りの建物であり、赤門・赤煉瓦塀同様、国登録有形文化財です。

今回はリニューアルされた展示館と館内展示物の見学を行ないました。　展示物の中には大学の前身校である師範学校の頃から使用されていた実験機器や医療の歴史資料の他「トキの剥製」・「小片(おがた)コレクションで有名な縄文時代の頭骨と人骨」また県内ジオパークに関連する重要な資料など多くの資料展示の他、教職員の研究成果や作品など様々な企画展も開催されておりました。

今回見学したなかで私が興味を持ったのは「アンモナイト」、今から４億年ほど前に海中で肉食生活をしていた動物が綺麗な形(化石)で残っていることや、縄文時代の「ヒトの頭骨や人骨」も科学的処理がされていない中しっかりとした形で残っていることに不思議さを感じました。
これ程までに進歩した現代において、考古学の研究者・専門家の人達でさえ解明できない自然界の?(なぞ)は、多くの人々の関心をひきつけるものがあります。